



温帯広葉樹二次林において階層別水盤トラップにより得られた石川県未記録の
ゴミムシダマシ上科とヒラタムシ上科

高田兼太・小路晋作

〈はじめに〉

水盤トラップは訪花性昆虫をはじめとする様々な昆虫類の簡便な採集法として広く使用されており (SOUTHWOOD 1978, LEONG and THORP 1999, CAMPBELL and HANULA 2007), 森林観測タワーなどに設置することにより, 森林昆虫の階層分布の調査にも適している (LEKSONO *et al.* 2005a, b). 筆者らは, 広葉樹二次林内に設置された樹冠部観測用タワーの高さ別に水盤トラップを設置して甲虫相を調査したところ, 石川県で未記録と思われる種を多数採集した. 本報告文では, このうち, ヒラタムシ上科とゴミムシダマシ上科に属する種について報告する.

〈調査方法〉

石川県金沢市に位置する金沢大学角間キャンパス (36°32' N, 136°42' E, 50~160 m a.s.l.) 内に設置された樹冠部観測用タワーにおいて調査を行った. 観測用タワーは丘陵地の尾根筋に位置し, 周辺の植生はコナラ *Quercus serrata* THUNBERG et MURRAY やアベマキ *Quercus variabilis* BLUME (ブナ科 Fagaceae) が優占する二次林であった (調査地の詳細については LEKSONO *et al.* 2005a を参照). 観測用タワー (高さ 20 m) の最上部は森林の樹冠部上部に達していた. 観測用タワーの上層 (20 m. 高木層), 中層 (10 m. 亜高木層), および下層 (0.5 m. 低木層) に, 黄色と青色の水盤トラップ (幅 29 cm, 奥行き 16 cm, 深さ 10 cm) を 2 器ずつ, 計 12 器設置した. 水盤トラップの中には, 防腐剤としてソルビン酸と少量の合成洗剤を加えた水を約 2 リットル程度入れた. 2000 年 5 月 13 日から 12 月 2 日にかけてトラップを回収し, 合計 28 回のサンプリングを行った. 採集された甲虫の標本は, 現在金沢大学で保管中である.

〈結果と考察〉

本調査により得られた石川県初記録のゴミムシダマシ上科 Tenebrionoidea (4 種) およびヒラタムシ上科 Cucujoidea (7 種) の採集記録を示す. なお, 得られた甲虫種の採集地と採集者は, いずれについても以下の通りである.

採集場所: 石川県金沢市角間町 (コナラ・アベマキ林)

採集者: 小路晋作, 高田兼太

1. ヒメクチキムシダマシ *Elacatis ocularis* LEWIS

(クチキムシダマシ科 Elacatidae)

1 頭, 水盤トラップ (青色), 高木層 (高さ 20 m), 13-V-2000.

1 頭, 水盤トラップ (青色), 低木層 (高さ 0.5 m), 3-VI-2000.

1 頭, 水盤トラップ (青色), 高木層 (高さ 20 m), 1-VII-2000.

1 頭, 水盤トラップ (青色), 亜高木層 (高さ 10 m), 8-VII-2000.

1 頭, 水盤トラップ (黄色), 亜高木層 (高さ 10 m), 9-IX-2000.

3 頭, 水盤トラップ (黄色), 高木層 (高さ 20 m), 18-IX-2000.

クチキムシダマシ科 Elacatridae は, これまでに石川県で報告されていないようである (高羽・ほか 1998). 本調査では, 本種は 5~7 月および 9 月に黄色・青色トラップの両方で採集された. また, 低木層よりも亜高木層や, 高木層で多く採集された.

2. キュウシュウヒメコキノコムシ *Litargus kyushuensis* MIYATAKE

(コキノコムシ科 Mycetophagidae)

- 1 頭, 水盤トラップ(黄色), 亜高木層(高さ10 m), 5-VIII-2000.
 1 頭, 水盤トラップ(黄色), 低木層(高さ0.5 m), 12-VIII-2000.
 1 頭, 水盤トラップ(青色), 亜高木層(高さ10 m), 9-IX-2000.
 本種は宮武(1985)により, 九州(九重山・祖母山)にのみ分布するとされていたが, その後福井県にて数例の採集報告がなされた(佐々治・ほか1998). 本調査は, 福井県に次ぐ本州での記録であろう.
3. ルリゴミムシダマシ *Encyalesthus violaceipennis* (MARSEUL)
 (ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae)
 1 頭, 水盤トラップ(青色), 高木層(高さ20 m), 10-VI-2000.
4. コチビキカワムシ *Lissodema minutum* LEWIS
 (チビキカワムシ科 Salpingidae)
 1 頭, 水盤トラップ(青色), 高木層(高さ20 m), 16-VII-2000.
5. キオビチビオオキノコ *Spondotriplax flavofasciata* CHUJO
 (オオキノコムシ科 Erotylidae)
 1 頭, 水盤トラップ(黄色), 低木層(高さ0.5 m), 1-VII-2000.
6. セグロチビオオキノコ *Aporotritoma laetabilis* (LEWIS)
 (オオキノコムシ科 Erotylidae)
 1 頭, 水盤トラップ(黄色), 低木層(高さ0.5 m), 17-VI-2000.
7. カクホソカタムシ *Cerylon sharpi* NAKANE
 (カクホソカタムシ科 Cerylonidae)
 1 頭, 水盤トラップ(青色), 亜高木層(高さ10 m), 27-V-2000.
 本科に属する甲虫は, これまでに石川県で採集されていないと思われる(高羽・ほか1998).
8. オオダナエテントウダマシ *Danae denticornis* (GORHAM)
 (テントウダマシ科 Endomychidae)
 1 頭, 水盤トラップ(青色), 低木層(高さ0.5 m), 1-VII-2000.
9. クロヒメテントウ *Scymnus japonicus* WEISE
 (テントウムシ科 Coccinellidae)
 1 頭, 水盤トラップ(黄色), 低木層(高さ0.5 m), 3-VI-2000
 1 頭, 水盤トラップ(黄色), 低木層(高さ0.5 m), 10-VI-2000.
10. ヒラムネヒメマキムシ *Enicmus histrio* JOY et TOMLIN
 (ヒメマキムシ科 Lathridiidae)
 1 頭, 水盤トラップ(青色), 低木層(高さ0.5 m), 1-VII-2000.
11. チャイロミジンムシ *Arthrolips rugosus* (MATTHEWS)
 (ミジンムシ科 Corylophidae)
 1 頭, 水盤トラップ(青色), 低木層(高さ0.5 m), 9-IX-2000.
 本調査では, わずか7ヶ月間のトラップ採集調査により, 計11種の石川県初記録種が記録された. これは, 石川県の森林性のゴミムシダマシ上科とヒラタムシ上科の種類相がまだ十分に明らかにされていないことを示唆しており, 今後も様々な植生において調査を継続することにより, 記録種数は増えるであろう. 特に, ヒメクチムシダマシのように高木層で多く捕獲される種については, 観測タワーなどを使った樹冠部におけるトラップ調査が, 種類相や個体数変動を明らかにするうえで有効と思われる. なお, 本報で報告した種を含むゴミムシダマシ上科とヒラタムシ上科の分布の階層性, トラップの色に対する選好性, 季節消長などについては別報にて報告する予定である.

〈謝 辞〉

標本の種同定の労をとっていただいた故 佐々治寛之氏(福井大学教育学部)と高羽正治氏(金沢市), 野外調査の補助をしていただいた Edian ENIF 氏に, この場をかりて御礼申し上げます.

引用文献

- CAMPBELL, J. and HANULA, J. L., 2007. Efficiency of Malaise traps and colored pan traps for collecting flower visiting insects from three forested ecosystems. *Journal of Insect Conservation*, **11**: 399-408.
- LEKSONO, A. S., NAKAGOSHI, N., TAKADA, K. and NAKAMURA, K., 2005a. Vertical and seasonal variation in the abundance and the species richness of Atteblabidae and Cantharidae (Coleoptera) in a suburban mixed forest. *Entomological Science*, **8**: 235-243.
- LEKSONO, A. S., TAKADA, K., KOJI, S., NAKAGOSHI, N., ANGRAENI, T. and NAKAMURA, K., 2005b. Vertical and seasonal distribution of flying beetles in a suburban temperate deciduous forest collected by water pan trap. *Insect*

Science, 12: 199-206.

LEONG, J.M. and Thorp, R.W., 1999. Colour-coded sampling: the pan trap colour preferences of oligolectic and nonoligolectic bees associated with a vernal pool plant. *Ecological Entomology*, 24: 329-335.

宮武睦夫, 1985. コキノコムシ. 黒沢良彦・久松定成・佐々治寛之(編), 原色日本甲虫図鑑 III. 285-288. 保育社, 500 pp.
佐々治寛之・井上重紀・酒井哲弥・斎藤昌弘・陶山治宏, 1998. コウチュウ目 Coleoptera. 佐々治寛之(編), 福井県昆虫目録 (第2版). 99-311. 福井県, 556 pp.

SOUTHWOOD, T. R. E., 1978. *Ecological Methods*, 2nd edn. Chapman & Hall, University Press, Cambridge.

高羽正治・井村正行・西原昇吾・中田勝之・高田兼太, 1998. Coleoptera コウチュウ目. 富樫一次(編), 石川県の昆虫. 102-251. 石川県, 537 pp.

(高田: 金沢大学理学部; 小路: 金沢大学理学部)

○ヒメセマルヒゲナガゾウムシの追加記録

ヒメセマルヒゲナガゾウムシ *Phloeobius mimes* SHARP (ヒゲナガゾウムシ科ヒゲナガゾウムシ亜科) は, Nagasaki から得られた標本に基づいて記載された種である (SHARP, 1891). セマルヒゲナガゾウムシ *Phloeobius gibbosus* ROELOFS のわい小型である可能性が指摘されたこともあったが (小田, 1977), 明らかに独立種であり, 頭部下面や触角球桿部の形態によって明瞭に区別することができる (MORIMOTO, 1979). これまでに, 本州および九州から記録されているものの, その採集例は少ない (森本, 1984). 最近, 筆者らは, 倉敷市立自然史博物館の奥島雄一氏のご厚意や野外調査を通じて, 本種の標本を検査する機会に恵まれたので, 若干の生態情報と共にここに報告する.

1♂2♀♀, 5. V. 2008, 茨城県土浦市穴塚, 吉武採集・保管; 1♂, 岡山県苫田郡奥津町井坂, 8. VI. 1986, 吉原一美採集, 倉敷市立自然史博物館保管; 1♂1♀, 岡山県津山市上田邑, 28. IV. 2004, 瀬島採集・保管; 1♂, 岡山県苫田郡鏡野町土居, 18. IV. 2004, 瀬島採集・保管; 2♀♀, 岡山県苫田郡鏡野町土居赤嶺, 25. IV. 2004, 瀬島採集・保管; 1♂, 同地, 3. V. 2004, 瀬島裕馬採集, 瀬島保管 (写真); 1♂, Hirose, Okayama Pref., 3. V. 1997, M. KANEDA leg., 倉敷市立自然史博物館保管; 1♂, 岡山県新見市法曾, 15. VI. 1986, 吉原一美採集, 倉敷市立自然

史博物館保管.

土浦市産の標本は, フジの枯蔓の叩き網によって得られたものである. また, 津山市産の標本は, 夕刻にカラスザンショウの比較的新しい伐採枝の下面で交尾していたものであり, 鏡野町産の標本は同じく夕刻に比較的新しいクリおよびアベマキそれぞれの伐採枝の叩き網で採集されたものであるが, 個体数は少なかった. 各産地の環境は, いずれもコナラ, アベマキ, エノキなどを主とする里山環境の雑木林である.

末筆ながら, 貴重な標本を検査する機会を恵んでくださった倉敷市立自然史博物館の奥島雄一氏および文献をご教示くださった愛媛大学の酒井雅博氏, 草稿をご校閲いただいた中央大学附属高等学校の妹尾俊男氏に厚くお礼申し上げます.

引用文献

- MORIMOTO, K., 1979. The family Anthribidae of Japan (Coleoptera). Part 2. *Esakia, Fukuoka*, (14): 1-23.
森本 桂, 1984. ヒゲナガゾウムシ科. 林匡男, 森本桂, 木元新作編著, 原色日本甲虫図鑑, (IV). pp. 231-232. pl. 45. 保育社, 大阪.
小田あけみ, 1977. 日本産 *Phloeobius* 属の2種について (Col.: Anthribidae). 四国虫報, 松山, (21): 109-111.
SHARP, D., 1891. The Rhynchophorous Coleoptera of Japan. Part II. Apionidae and Anthribidae. *Trans. ent. Soc. London*, 1891: 319.

(愛媛大学, 瀬島翔馬;
農業環境技術研究所, 吉武 啓)

○クロツヤツツホソカタムシの記録2例

クロツヤツツホソカタムシ *Teredolaemus politus* (LEWIS, 1879) は, 本州, 四国, 九州, 奄美大島から記録されるムキヒゲホソカタムシ科の1種である. 筆者の手に青木(2009)に記録がみられない対馬と石川県で採集された標本があるので記録しておきたい.

1頭, 長崎県厳原町(現・対馬市)椎根川流域, 30~200 m, 27. VII. 1988, 秋田勝己採集.

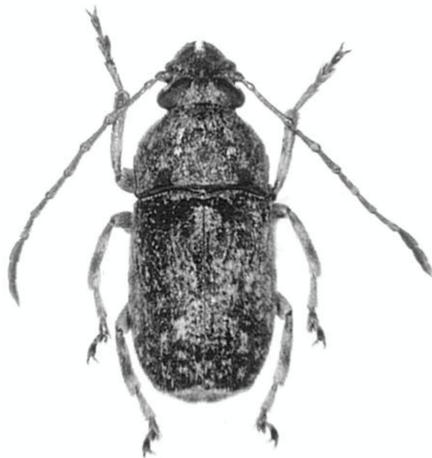
1頭, 石川県山中町(現・加賀市) Masago, 26. VI. 1991, 湯沢宣久採集.

石川県産の標本を恵与された蟹江昇氏に感謝したい.

参考文献

- 青木淳一, 2009. ホソカタムシの誘惑. iv+194 pp. 東海大学出版会.

(三重県津市, 秋田勝己)



写真

トカラ列島悪石島でのタマムシ科の採集記録(1)

服部 宇春

Records of Some Buprestidae from Island of Akuseki, the Tokara Archipelago

Takaharu HATTORI

筆者は、2008年7月にトカラ列島悪石島にて、タマムシ科の数種を採集したので報告する。また、以前、筆者が悪石島から記録した報告も補足して記述する。従来、悪石島からは、タマムシ科4種が報告されている。

今回のトカラ列島での調査・採集の許可を頂いた十島村役場の方々および親切にご協力頂いた島民の方々に感謝申し上げる。また、標本を恵与して頂いた西田信夫氏に同様に感謝申し上げる。

- (1) ウバタマムシ^{1),2)} *Chalcophora japonica japonica* (GORY, 1841)

2♀♀, 鹿児島県鹿児島郡十島村悪石島, 12-15. vii. 2008, 筆者採集; 1♀, 同一採集地, 18. vii. 1999, 西田信雄 採集.

- (2) サツマウバタマムシ *Chalcophora yunnana nakanei* Y. KUROSAWA, 1974

6♂♂, 同一採集地, 同一期間(12-15. vii. 2008), 筆者採集.

- (3) アヤムネスジタマムシ²⁾ *Chrysodema lewisii* E. SAUNDERS, 1873

2♂♂4♀♀, 同一採集地, 同一期間, 筆者採集; 1♀, 同一採集地, 18. vii. 1999, 西田信夫採集.

- (4) クロタマムシ *Buprestis (Buprestis) haemorrhoidalis japonensis* E. SAUNDERS, 1873

3♂♂2♀♀, 同一採集地, 同一期間, 筆者採集; 1♀, 同一採集地, 18. vii. 1999, 西田信夫採集.

- (5) アマミムツボシタマムシ³⁾ *Chrysobothris ohnoi* Y. KUROSAWA, 1975

1♀, 同一採集地, 29. vi. 1997, 杉本雅志採集.

- (6) ムネアカチビナカボソタマムシ *Nalanda rutilicollis rutilicollis* (OBENBERGER, 1914)

3♂♂3♀♀, 同一採集地, 同一期間, 筆者採集.

- (7) ヤクシマクリタマムシ⁴⁾ (写真1) *Toxoscelus yakushimensis yakushimensis* Y. KUROSAWA, 1957

3♂♂3♀♀, 同一採集地, 同一期間, 筆者採集; 1♀, 同一採集地, 17. vii. 1999, 西田信夫採集.

- (8) クモガタナガタマムシ²⁾ *Agrilus mallotielus* Y. KUROSAWA, 1985

3♂♂3♀♀, 同一採集地, 同一期間, 筆者採集.

- (9) ネムノキナガタマムシ *Agrilus subrobustus* E. SAUNDERS, 1873

3♂♂3♀♀, 同一採集地, 同一期間, 筆者採集.

悪石島で未記録であったと思われる種は、サツマウバタマムシ、クロタマムシ、ムネアカチビナカボソタマムシ、ネムノキナガタマムシである。ヤクシマクリタマムシは、鞘翅の模様などから、現在、屋久島から記載された基準亜種と同定でき、奄美亜種である *Toxoscelus yakushimensis gressitti* Y. KUROSAWA, 1977 とは異なっている。ヤクシマクリタマムシの報告は、悪石島での追加記録である。

引用文献

- 1) KUROSAWA, Y., 1974. A revision of the East Asian species of the genus *Chalcophora* (Coleoptera, Buprestidae), with special reference to their distribution and Differentiation. *Mem. Natn. Sci. Mus., Tokyo*, (7): 169-192, pl. 19.
- 2) 秋山黄洋・大桃定洋, 1997. 日本産タマムシ科チェックリスト. 月刊むし Supplement (1): 1-67.
- 3) 服部宇春, 1998. トカラ悪石島からのオオシマツボシタマムシの記録. *Gekkan-mushi*, (331): 39.
- 4) 服部宇春・西田信夫, 2001. トカラ悪石島からのヤクシマクリタマムシの記録. *Gekkan-mushi*, (365): 47.

(横浜市旭区, 服部宇春)



写真1

ホウオウコメツキ岐阜県に分布

大平仁夫・豊島健太郎

ホウオウコメツキ (*Houwau alpicola*) は, KISHII (1933) が山梨県鳳凰山鳳凰小屋 (標高約 2,500 m) で細田倅市氏により採集 (24-VII-1990) された 1 雌個体に基づいて, 新属新種として記載した黒色の小形種である。

原記載以降に本種は有本 (2005) が長野県上伊那郡長谷村北沢峠 (標高 2,100 m) で石川豊氏が採集の 1 雄 1 雌 (19-VII-1986) と 1 雌個体 (4-VII-1986), 長野県南佐久郡八千穂村麦草峠 (標高 2,100 m) で, 同様に石川豊氏が採集の 1 雌 (12-VII-2002) と 1 雄 (29-VI-2003) 個体を報告しており, 雄交尾器と触角なども示している。

現在までに知られているのは上記の山梨県 1 例と長野県の 2 例のみである。このたび, 岐阜県高山市朝日町胡桃島 (標高 1,800 m) のトウヒなどの針葉樹林内で, 筆者の 1 人である豊島が FIT を設置して 1 雌を見出した。

体長は 6 mm 内外, 体は黒色で光沢を有し, 両側は平行状で, 触角と肢は黄褐色を呈する。外形でもっとも識別しやすいのは, 前胸腹板突起の末端部背面が斜めに切断状を呈することである (図 1, B↑)。

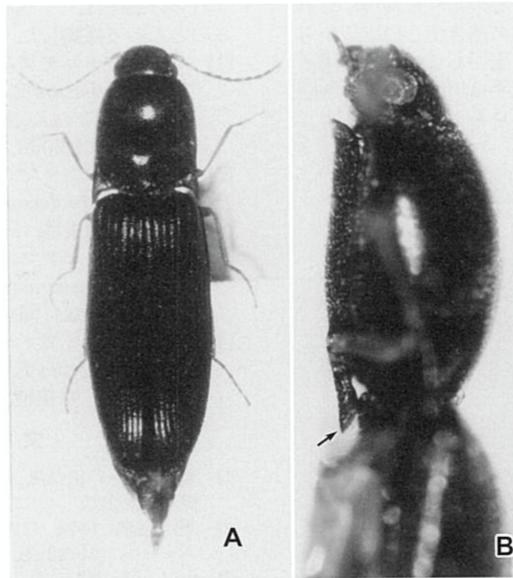


図 1. ホウオウコメツキ, ♀. A, 体長 6.3 mm; B, 前胸腹板突起の側面 (↑)。

これまでの記録から判断して, 本種は亜高山～高山に分布するきわめて個体数の少ない種のように, 豊島は 6 月から 9 月まで過去 3 年間連続して FIT を設置したが, 採集できたのは図示した 1 雌のみであった。今後も注意してその分布や生態の解明をしていきたいと考えている。

分布: 本州 (山梨県, 長野県, 岐阜県)。

調査標本: 1♀, 岐阜県高山市朝日町胡桃島, 27-VII-2008, 豊島健太郎採集。(図示した個体)

引用文献

有本久之, 2005. ホウオウコメツキ雄の形態について. 甲虫ニュース, (150): 19-20.

KISHII, T., 1933. A new Megapenthini in the generic and specific status (Coleoptera, Elateridae). Some new forms of Elateridae in Japan (XXIX). *Ent. Rev. Japan, Osaka*, 48(2): 87-91.

(大平: 〒444-3511 岡崎市舞木町狐山 6-4)

(豊島: 〒500-8227 岐阜市北一色, 3-12-14)

○群馬県におけるアカツヤドロムシの記録

アカツヤドロムシ *Zaitzevia rufa* NOMURA et BABA は、山形県、福島県、新潟県、茨城県および栃木県から確認されている非常に稀な種であり (吉富ら, 2002; 疋田, 2002), 環境省 (2007) では、絶滅危惧 II 類 (VU) に指定されている。本種は、複眼が退化傾向にあること、体色が赤褐色であること、これまでの採集状況などから地下水脈に関係のある種と考えられている。筆者らは、これまで記録の無かった群馬県において本種を確認しているので報告する。

1 頭, 群馬県片品村戸倉古父山沢, 10. VI. 2006, 疋田直之採集・保管; 1 頭, 同所, 26. IX. 2009, 上手雄貴採集・保管。

採集した環境は、周囲が樹林で囲まれた薄暗い細流で、スネアカヒメドロムシ *Optioservus variabilis* NOMURA なども確認された。このような環境においては、大きな石の下の伏流水の湧き出し口周辺から得られることが多いようで、疋田もこのような場所から確認している。また、上手は川床を足でかき回して採集する一般的なヒメドロムシの採集法によって確認している。



末筆ながら本種の記録に関してご教示いただいた林成多博士, 2009 年の採集に同行していただいた上手奈美氏に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 疋田直之, 2002. 御前山村相川で採集した水生甲虫について. おけら, (61): 7-12.
 環境省, 2007. 哺乳類, 汽水・淡水魚類, 昆虫類, 貝類, 植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて. 報道発表資料, 環境省自然環境局野生生物課, 環境省ホームページ.
 吉富博之・疋田直之・佐藤正孝, 2002. アカツヤドロムシの分布とその生息環境. レッドデータ水生甲虫類の分

布記録 2. 甲虫ニュース, (140): 9-11.

(愛媛大学農学部環境昆虫学研究室, 上手雄貴; 茨城県水戸市, 疋田直之)

○ネムノキナガタマムシの成虫越冬の記録

従来, ナガタマムシ属の中でヒシモンナガタマムシは, 成虫越冬^{1), 2), 3)} することが知られている。今回, 新しく, ネムノキナガタマムシの成虫越冬の個体を採集したので報告する。

筆者らは, 冬期, マルガタチビタマムシの成虫越冬個体を採集する目的で, ムクノキ (*Aphananthe aspera*) の薄皮下を調べているとき, ヒシモンナガタマムシの集団越冬個体の中にまじっているネムノキナガタマムシを採集した。

以下に, そのとき採集できたタマムシ科の数種と共に採集データを示す。当日, 天候は晴れであり, これらの個体は, すべて地上 1 m から 2 m 位の高さのところで採集した。

- (1) ヒシモンナガタマムシ
Agrilus discalis E. SAUNDERS, 1873
1♂, 2♀, 13 exs., 愛知県豊田市矢作川河川敷お釣土場, 3. i. 2008, 筆者ら採集。
- (2) ネムノキナガタマムシ
Agrilus subrobustus E. SAUNDERS, 1873
1♀, 同一採集地, 同日, 筆者ら採集。
- (3) ナミガタチビタマムシ
Trachys griseofasciata E. SAUNDERS, 1873
2♂, 2♀, 13 exs., 同一採集地, 同日, 筆者ら採集。
- (4) マルガタチビタマムシ
Trachys inedita E. SAUNDERS, 1873
5 exs., 同一採集地, 同日, 筆者ら採集。

文 献

- 1) 蟹江 昇・戸田尚希, 2008. 愛知県のタマムシ, 佳香蝶, (60): 220.
- 2) 黒沢良彦, 1974. 日本産タマムシ科概説 (11). 甲虫ニュース, (21/22): 2.
- 3) 山口 茂・藤田 宏, 2006. ヒシモンナガタマムシの集団越冬—神奈川県座間市—. *Gekkan-mushi*, (421): 14-15.

(横浜市旭区, 服部宇春; 愛知県瀬戸市, 蟹江 昇)

○徳之島のアマミナガキマワリ

アマミナガキマワリ *Strongylium akitai* MASUMOTO, 1998 は, 奄美大島産の標本をもとに記載されたゴミムシダマンで, 琉球列島の他の島からは, 記録が見られない。筆者の手元に徳之島産の標本があるので記録しておきたい。

1♀, 徳之島天城岳手々林道, 1-5. X. 2000, 秋山信採集, 筆者保管。

貴重な標本を恵与していただいた秋山信氏に感謝する。

(三重県津市, 秋田勝己)

台湾から発見されたチャイロビロウドコメツキダマシ

鈴木 互

台湾のコメツキダマシについては Miwa (1931) が 11 種を記録しているが、その後は断片的な新種記載や採集記録がある程度に過ぎない。MUONA (2007) は、旧北区の目録をまとめた際、台湾からは 13 種を認めているが、リストには素木標本に基づいた記録が引用されていたり、記録が漏れた種も少なくない。これらのリストを見直して整理すると、台湾のコメツキダマシの種数は、全体で 19 種となる。日本のコメツキダマシは 70 種あまりであるから、その 1/3 にも満たない数字となる。台湾の昆虫相が日本に比べても豊かであることを考えれば、台湾のコメツキダマシの研究がいかに立ち後れた状況にあるのかを示しているといえよう。

筆者が所蔵する台湾産のコメツキダマシは、資料としても十分ではないが、興味深い種も含まれているので、今後明らかになったところから順次報告し、台湾のコメツキダマシを明らかにしていきたいと考えている。今回は、その資料の中から、台湾初記録となるチャイロビロウドコメツキダマシを見いだしたので、ここに写真をつけて紹介したい。

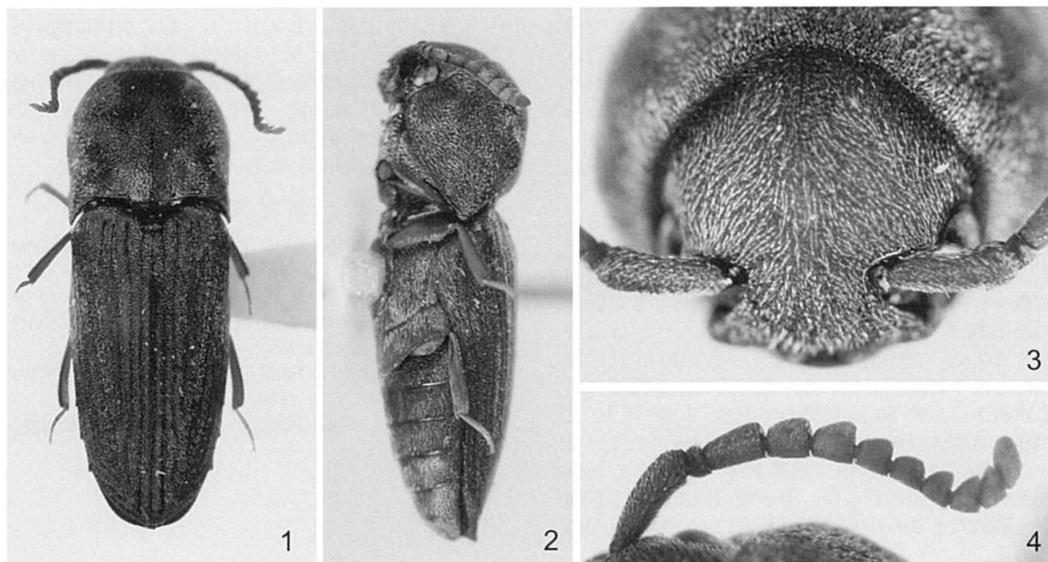
本文を書くに当たり、貴重な標本をご恵与下さった、伊藤正雄氏に厚くお礼申し上げる。

チャイロビロウドコメツキダマシ
Agastocerus haddeni MUONA, 1991
(Figs. 1-4)

Agastocerus haddeni MUONA, 1991: 65, fig. 40, 72, pl.1, 10 (Philippines: Luzon Is., Mt. Makling).

本種は、フィリピンのルソン島 Mt. Makling で 1932 年 4 月に得られた 8 雄 12 雌の個体に基づいて MUONA (1991) により命名記載されたコメツキダマシである。原記載以降の記録は全くなく、台湾からはこれが最初の記録となる。

形態。雄。体長 7.5 mm、幅 2.5 mm。体は円柱状だが、後方に狭まる。色彩は赤茶～茶色で、腹部下面は暗褐色となる。体は金色の寝ている短毛で覆われ、ややピロード状となる。頭部は全面に細かな点刻を密布し、正中部に 1 本の隆起線を有する (Fig. 3)。触角第 1 節の受け入れ溝は平滑で無点刻。触角は短く、前胸後角に達しない (Fig. 1)。第 2 節は短小で、長さよりやや幅広い程度、第 3 節は長く、幅のおよそ 1.8 倍、第 4 節はほぼ四角で、幅と長さはほぼ等しい (Fig. 4)。前胸背板は強く膨隆するが、中心部は狭く凹み、基部に 1 本の隆起線を有する。背面からみると、基部 1/3 の両側に三角形の大きな隆起がある。表皮面は光沢を欠き、細かい顆粒状突起で密に覆われるが、側縁部や基部中央部では不明瞭となり、密に点刻される。前胸腹板突起 (Fig. 2) は



Figs. 1-4. *Agastocerus haddeni* MUONA. 1, dorsal habitus, 2, lateral habitus, 3, head, fronal view, 4, right antenna.

太く、後方へ直線上に伸長する。腹面から見ると、細長く、後方に狭まり、前脚基節空間に 1 本の明瞭な隆起線を有する。上翅は太く、基部の 2.1 倍の長さに等しい。第 1~4 条は明瞭で、第 3 と第 4 条は先端 1/3 で閉じる。間室は一律に小さな点刻を散布し、第 1 と第 3 間室は他の間室に比べ隆起する。上翅端会合部は後方に伸び、尖る。後胸腹板は全体が圧せられ、粗雑な点刻で密に覆われる。後基節 (Fig. 2) は長四角形で大きく、表面は密に点刻され、光沢を欠く。附節は細く、第 1~4 節下面にそれぞれ小さな膜状片を備える。爪は単純。

検視標本。1♂, near Liukuei (六龜), Kaohsiung Hsien, Taiwan, 8. III. 1978, M. Itô Leg.

台湾には色彩や体型が本種に似た *Galbites tomentosa* (MONTROUZIER, 1868) が分布するが、本種は触角が雌雄ともに単純で、櫛歯状とならないことにより、後者から容易に区別することができる。MUONA (1991) の原記載とは、触角第 3 節が台湾の個体ではやや長いという違いが認められたが、他の特徴はよく一致したことから、本種と判断した。

分布。フィリピン (ルソン島)、台湾 (高雄県)。

本種を含む *Agastocerus* 属は、インドシナ半島、フィリピン、そしてインドネシアからこれまでに 5 種が確認されている。今回台湾でフィリピンからしか記録のなかったチャイロビロウドコメツキダマシが発見されたことにより、さらにその分布域を北に広げることになった。いまのところ、台湾の属島や日本の南西諸島では、本属のコメツキダマシは発見されていないが、調査をされる際は注意をお願いしたい。

引用文献

- MIWA, Y., 1931. Systematic catalogue of Formosan Coleoptera. *Report of the Department of Agriculture Government Research Institute (Taihoku)*, 55: 1-359.
- MUONA, J., 1991. A revision of the Indomallesian tribe Galbitini new tribe (Coleoptera, Eucnemidae). *Entomologica scandinavica, Suppl.*, (39): 1-67.
- MUONA, J., 2007. Family Eucnemidae. In LÖBL, I. & A. SMETANA (eds.), *Catalogue of Palaearctic Coleoptera*, 4: 81-87. Apollo Books.

(東京都世田谷区)

○アカモンミゾドロムシをフライト・インターセプション・トラップで採集

アカモンミゾドロムシ *Ordobrevia maculata* (NOMURA) は、西日本では河川上流から源流部にかけて比較的普通に見られる種であり、香川県でも河川上流部から広く記録されている (例えば藤本・出嶋, 2005)。しかし、発達した後翅を持つにも関わらず、生息地付近で灯火採集を行っても全く飛来しない等、本種が飛翔を行うという知見はこれまで得られていないようである (中島淳氏, 私信)。筆者は 2009 年にフライト・インターセプション・トラップ (以下 FIT と略記) を用いて本種を採集しているため、記録を報告する。

1 頭、香川県綾川町粉所東・庄坂 (標高 300 m), 31. VIII.~6. IX. 2009.

2009 年 4 月より、渡辺 (2009) に紹介されたものと同型の吊り下げ式 FIT を 2 基、シイタケのほだ木が並べられた疎林の縁に設置し、当地域の甲虫相調査を行っている。FIT は、本種が生息する可能性のある細流 (実際に生息しているかどうかは未確認) からは、直線距離で少なくとも 100 m ほど離れたところに設置している。最も近い水辺環境である水田からも約 50 m は離れており、2009 年 12 月現在、本個体以外に水生甲虫は全く採集されていない。飛翔による移動中に偶然 FIT に落ちたことは間違いないと思われるが、思いのほか本来の生息地から離れたところから採集されたことに驚いた次第である。

なお、同属のゴトウミゾドロムシ *Ordobrevia gotoi*

NOMURA も、河川流水中で普通に見られるにも関わらず本種同様灯火には飛来しないが、栃木県奈須野が原において 7 月の日中にトラックトラップによって採集された例がある (TAKAHASHI・SATO, 1988)。水生甲虫類が、どの時期、どの時間帯に飛翔活動を行うのかを効率的に把握するには、より生息環境に近接した場所で FIT やトラックトラップを実施するのが有効な手段ではないだろうか。

末筆になったが、ヒメドロムシ類の飛翔に関する知見をご教示いただき、記録の発表を助めていただいた緒方健 (福岡県保健環境研究所) ならびに中島淳 (九州大学) の両氏、FIT による調査を助めていただき、本知見発見のきっかけを与えていただいた渡辺昭彦氏 (岡山市) に心よりお礼申し上げる。

参考文献

- 藤本博文・出嶋利明, 2005. 香川県で採集されたヒメドロムシ類、へりぐろ, (26): 45-52.
- TAKAHASHI, K. et SATO, M., 1988. Flight activity of insects sampled with a truck trap III. Flight activity of aquatic beetles. *Kontyu*, 56(4): 892-895.
- 渡辺昭彦, 2009. 吊り下げ式簡易型屋根付き FIT とその作り方. 甲虫ニュース, (166): 7-9.

(香川県綾歌郡宇多津町, 藤本博文)

○長崎県平戸島で採集されたセマルミズギワゴミムシの記録

セマルミズギワゴミムシ *Bembidion nipponicum* (HABU et S. UENO, 1955) は、福岡県英彦山の標高約 1,000m 地点で 1948 年 8 月 3 日に採集された個体に基づいて記載された種である。現在までに九州と四国に分布し、いずれの産地でも 1,000 m 程度の標高に生息するようである。また、森田氏からの私信によると未発表ながら本州にも分布しているという。筆者は、この度本種を、長崎県平戸島の標高 500 m 程度の低山で得ることができたためここに記録したい。長崎県内からも今坂正一氏らによって記録されているが雲仙岳と多良山系山頂付近のいずれも標高 1,000 m 付近ないしそれ以上の地域でしかその生息は確認されていない(長崎県県民生活環境部自然保護課, 2001)。

1♂, 長崎県平戸市坊方町安満岳, 8. II. 2008, 柿添翔太郎採集; 1♀, 同地, 8. II. 2009, 柿添翔太郎採集。

1♀, 同地, 6. V. 2009, 柿添翔太郎採集; 1♂, 1♀, 同地, 14. VI. 2009, 柿添翔太郎 & 羽織屋千加採集。

上記の個体は山道の崖の土中(2月採集)または落葉下(5, 6月採集)より採集された。



今回の報告にあたり、貴重な文献のコピーを提供していただいた上野俊一博士、標本写真の撮影に協力していただいた丸山宗利氏、採集に関して教示いただいた堀繁久氏、真野俊作氏、そして本種の同定の労を賜り、多々ご教示いただいた森田誠司氏に心よりお礼申し上げます。

参考文献

HABU, A. & S. UENO, 1955. A new subgenus and two new

species of the tribe Bembidiini (The Carabidae-fauna of Mt.Hiko, III). *Mushi, Fukuoka*, 28: 43-47.
森田誠司, 1985. ミズギワゴミムシ亜科, ヌレチゴミムシ亜科. 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝編著, 原色日本甲虫図鑑 (II): 89-102, pls. 17-19. 保育社, 大阪.
長崎県県民生活環境部自然保護課, 2001. ながさきの希少な野生動植物—レッドデータブック 2001—: 395-521.

(長崎県立猶興館高等学校, 柿添翔太郎)

○茨城県, 秋田県でコルリクビボソハムシを採集

コルリクビボソハムシ *Lema (Lema) michioi* K. SUZUKI は, K. SUZUKI (2005) により記載された種で, 水田等に生えるイボクサを食草としている。その分布は大川・内山 (2008a, b), 末長・武智 (2009), 宮内 (2010) によると, 以下の各都道府県から記録されている。

関東地方: 群馬, 栃木, 埼玉, 千葉, 東京, 神奈川
中部地方: 富山, 石川, 福井, 岐阜, 愛知
近畿地方: 滋賀, 京都, 大阪, 兵庫
中国地方: 岡山, 広島, 島根
四国地方: 愛媛, 高知
九州地方: 佐賀

筆者は今回、本種を茨城県と東北地方初記録と思われる秋田県で採集したので報告する。

1♀, 茨城県鹿嶋市粟生. 11. VIII. 2008; 1♀, 秋田県にかほ市冬師. 20. IX. 2009. (Fig. 1) いずれも筆者採集・保管。



Fig. 1. 秋田県にかほ市冬師

茨城県では水田畦畔のイボクサでトゲアシクビボソハムシ *Lema (Lema) coronata* BALY やアカクビボソハムシ *L. (L.) diversa* BALY とともに採集した。秋田県では水田のイボクサをスウィーピングしたときに採集した。両県の個体はともに通常型であった。

本報告にあたり、本種の群馬県についての記録を御教示し、文献を御恵与された足利市の大川秀雄氏

に厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 宮内博至, 2010. 日光市でコルリクビボソハムシを採集. *昆虫*, 60(2): 210.
- 大川秀雄・内山裕司, 2008a. 甲虫類・その他の昆虫. 館山市史特別編第3巻—館林の自然と生き物—: 388-425.
- 大川秀雄・内山裕司, 2008b. 2-4 その他の昆虫(トンボ・チョウ・ガを除く). たてばやしの動植物—目録および調査基礎資料集—(追加・訂正目録および資料): 12-17.
- 末長晴輝・武智礼智, 2009. 愛媛県におけるコルリクビボソハムシの記録. *甲虫ニュース*, (165): 20.
- SUZUKI, K., 2005. Description of a new species of the genus *Lema* (Coleoptera, Chrysomelidae, Criocerinae) from Honshu, Japan. *Elytra*, 33(1): 86-94.
(千葉県市川市八幡 5-20-11, 宮内博至)

○コマルシジミガムシを新潟県および富山県で採集
コマルシジミガムシ *Laccobius masataikai* KAMITE, OGATA et HIKIDA は, 茨城県を基準産地として山形県, 福島県, 神奈川県, 4 県の標本を元に記載された種である。2007 年という比較的最近に記載されたこともあり, 原記載以降の記録は見当たらない。筆者らは, これまで記録の無かった新潟県および富山県において本種を確認しているため報告する。

8 頭, 新潟県十日町市津池(田川沿いの崖), 8. V. 1999, 林成多採集, 上手雄貴保管; 20 頭, 富山県上市町積泉寺, 20. IX. 2009, 上手雄貴・上手奈美採集, 上手雄貴保管。



本種の生息環境は, 壁面に水が滴り落ちるような場所である。新潟県においては田川の川沿いで地質調査をしている際, 水がしみ出している魚沼層の砂

岩の崖から採集した。また, 富山県においては道路脇のコンクリートの壁から水が滴り落ちている場所からクロサワツブミズムシ *Satonius kurosawai* (SATO) とともに得られた。

末筆ながら富山県における採集に同行していただいた上手奈美氏に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- KAMITE Y., T. OGATA, and N. HIKIDA, 2007. Two new species of the genus *Laccobius* (Coleoptera, Hydrophilidae) from Japan. *Elytra*, Tokyo, 35(1): 34-41.
(愛媛大学農学部環境昆虫学研究室, 上手雄貴; ホシザキグリーン財団, 林 成多)

○下甌島におけるサツマホソゴミムシダマシの記録
サツマホソゴミムシダマシ *Corticeus (Pogonophloeus) exiguus* BREMER はタイから記載された種であるが, 筆者ら(2009)は, これを日本初記録として鹿児島県薩摩川内市から記録した。今回, 青木淳一氏から同氏が鹿児島県下甌島で採集されたゴミムシダマシのなかに本種 1 頭を見出した。

貴重な標本を恵与された青木淳一氏に感謝したい。

1 頭, 鹿児島県下甌島瀬々野浦上, 4. X. 2009.

参考文献

- AKITA, K. & K. MASUMOTO, 2009. New or little-known tenebrionid species (Coleoptera) from Japan (9). Two new species and a new distribution record from Japan. *Ent. Rev. Japan, Osaka*, 64(2): 247-253.
- BREMER, H. J., 1998. Revision der orientalischen *Corticeus*-Arten (Col., Tenebrionidae, Hypophloeini), I Teil. *Acta Coleopterologica*, 14: 3-32.
(三重県津市, 秋田勝己; 大妻女子大学, 益本仁雄)

○与那国島産ゴミムシダマシ 3 種の記録

青木淳一氏からいただいた同氏採集による与那国島産のゴミムシダマシに, 同島未記録と思われるものがあつたので記録しておきたい。貴重な標本を恵与された青木淳一氏に厚く御礼申し上げます。

ヘラヅノキノコゴミムシダマシ *Platydemia planicorne* M. T. CHŪJŌ

4 頭, 高農道, 5. II. 2010.

ヨツノチビゴミムシダマシ *Pentaphyllus quadricornis* GEBIEN

3 頭, 久部良岳, 1. II. 2010; 7 頭, 高農道, 5. II. 2010.

オビモンホソゴミムシダマシ *Leptoscapa unifasciata* KASZAB

1 頭, 満田原, 1-3. II. 2010.

参考文献

- 東 清二ほか, 2002. 琉球列島産昆虫目録増補改訂版. 570 pp. 沖縄生物学会.
(三重県津市, 秋田勝己; 大妻女子大学, 益本仁雄)

東京都におけるクリイロツヤハダコメツキの採集記録

有本久之

クリイロツヤハダコメツキ *Elathous brunneus* は LEWIS (1894) により Nikko で採集された標本に基づいて命名記載された種である。少ない種のように、記載以後長らく再報がなかったが、近年相次いで採集記録が報告され、今では福島県から岡山県の間で点々と分布が知られ、また四国でも分布が知られている。

筆者は今回、これまで分布記録の無かった東京都で採集された本種を検査することができたので記録しておく。1♂1♀、東京都奥多摩町小川谷、9. VIII. 2009、野中勝採集。

検した個体の体長は雄 11 mm、雌 16 mm で雌は雄に比べ大型である。体色は雌雄とも種名の通りクリ色をしており、肢は黄褐色である。

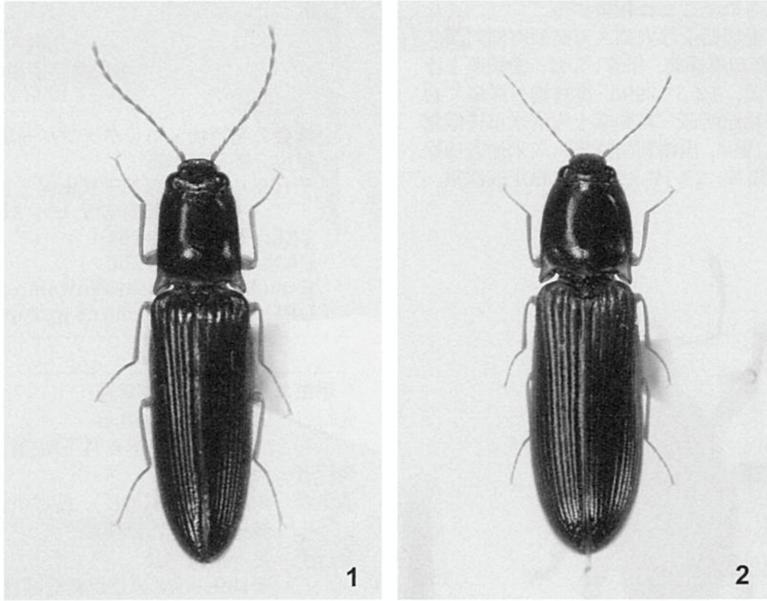


写真 1. ♂, 2. ♀

今回採集された個体はシオジの洞より採集されており、雌の採集例は非常に少ないものと思われる。また、鈴木 (2001) は本種がブナの洞から採集されたことを報告しており、今回の採集例は本種の成虫や幼虫が洞の中で生活することを強くうかがわせる結果となった。

最後に、貴重な標本を提供して頂いた野中勝博士並びに本種の分布記録についてご教授頂いた鈴木互博士に厚くお礼申し上げる。

参考文献

- 大平仁夫, 1985, *Limonius brunneus* LEWIS というコメツキムシについて. 甲虫ニュース, (70): 5.
 鈴木 互, 1987. 日本地域におけるコメツキムシ科の分類学的覚書 (1). 甲虫ニュース, (75, 76): 1-8.
 鈴木 互, 2001. ブナの洞から採集されたクリイロツヤハダコメツキ. 月刊むし, (365): 50.
 渡辺昭彦, 1987. 105 年目に再発見されたコメツキムシ. 月刊むし, (195): 20-21.

(大阪市住吉区)

○イチハシシギゾウムシを四国で採集

イチハシシギゾウムシ *Curculio (Curculio) ichi-hashii* は、MORIMOTO (1962) により、三重県(模式産地: Ishiyakushi) から得られた標本に基づいて記載された小型のシギゾウムシである。その後、和歌山県(的場, 1997; 的場, 1999)、広島県(小島, 2006) から記録されているが、その他の都道府県からの記録はないようである。

最近、筆者らは平塚市の野津裕氏、倉敷市立自然史博物館の奥島雄一博士、高松市の久米加寿徳氏のご厚意や野外調査を通じて本種の標本を検査する機会に恵まれた。採集例の少ない種であり、四国からは未記録と思われるのでここに報告する。

1頭(写真)、愛媛県上浮穴郡久万高原町面河溪, 2. VI. 2006, 瀬島翔馬採集, 保管; 3頭, 愛媛県上浮穴郡面河村面河溪, 12. V. 1994, 奥島雄一採集, 倉敷市立自然史博物館所蔵; 高知県土佐清水市栲原鷹取山, 18. VIII. 1994, 出嶋利明採集, 久米加寿徳保管; 1♀, 高知県黒尊, 29. IV. 1956, 久松定成採集, 野津裕保管。

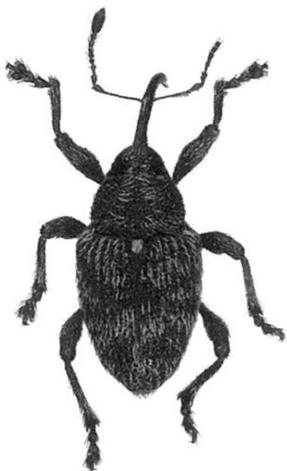


写真 イチハシシギゾウムシ

採集地のひとつ面河溪は、カシ類、サカキ、ヤブツバキ等の常緑広葉樹とカエデ類やサワグルミといった落葉広葉樹の混交林が溪谷沿いに広がっており、良好な自然環境が保たれている。瀬島が採集した個体は、林縁の樹木の枝先を掏って採集したものである。本種の奇主植物については、イヌシデの可能性が示唆されているが(小島, 2006)、今回は生活史解明に関する知見は得られなかった。なお、5月に採集された個体は新鮮である一方、6月および8月に採集された個体は汚損していたことを付記しておく。

末筆ながら、貴重な標本を検査する機会を与えてくださった奥島雄一博士、標本情報を提供して下さった野津裕氏と久米加寿徳氏、文献をご教示くだ

された和歌山県立自然博物館の的場績氏、写真撮影の労を賜り、草稿を校閲して下さった農業環境技術研究所の吉武啓氏に厚くお礼申し上げる。

引用文献

- 小島弘昭, 2006. シギゾウムシ2種の分布記録と奇主植物の推定. 甲虫ニュース, (156): 13.
 的場 績, 1997. 後藤伸氏採集のゾウムシ類. KINOKUNI, (52): 20.
 的場 績, 1999. 和歌山県産ゾウムシ科目録. 和歌山県立自然博物館館報, (17): 29-51.
 MORIMOTO, K., 1962. Revision of the subfamily Curculioninae from Japan II (Coleoptera). *Mushi*, 36 (4): 21-40.

(九州大学, 瀬島翔馬;
 香川県宇多津町, 藤本博文)

◇学会の発行者・バックナンバー販売委託先◇

昆虫文献 六本脚

〒102-0075 東京都千代田区三番町 24-3
 三番町 MY ビル 3階

TEL: 03-6825-1164

FAX: 03-5213-1600

E-mail: roppon-ashi@kawamo.co.jp

URL: <http://kawamo.co.jp/roppon-ashi/>

甲虫ニュース 第169号

発行日 2010年3月30日

次号は2010年6月下旬発行予定

発行者 新里達也

編集者 鈴木 互(編集長), 長谷川道明, 川島逸郎,
 奥島雄一, 吉富博之

発行所 日本鞘翅学会

〒169-0073 東京都新宿区百人町 3-23-1

国立科学博物館昆虫第2研究室

電話 03-3364-2311

原稿送付先(甲虫ニュース) 鈴木 互

〒156-0053 東京都世田谷区桜 3-14-13

電子メール: wsuzuki@hosei2.ed.jp

印刷所 (株)国際文献印刷社

年会費 2010年度 7,000円(一般会員)

郵便振替口座番号 00180-3-401793

ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/jsc2/index.html>

昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫針00, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6号, 有頭ダブル針も出来ました。その他, 採集, 製作器具一切豊富に取り揃えております。

〒142-0051 東京都品川区平塚2丁目5番8号

郵便振替 00130-4-21129

電話 (03) 5858-6401 (ムシは一番)

F A X (03) 3784-6464

(カタログ贈呈) (株)志賀昆虫普及社